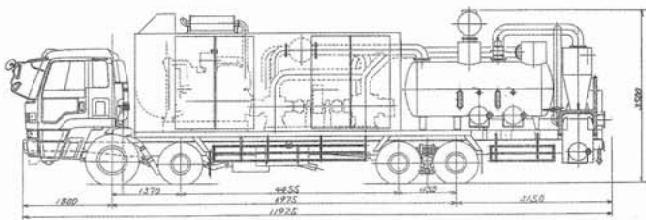


1991 パワープロベスター AD-11SWW



品 名：パワープロベスター

開発目的：日本で最大級の吸引車を造る。

特 徴：SS級ルーツブロワーを2組並列に搭載し同時又は単独に吸引作業ができる構造とした。駆動用エンジンはカミンズ社製であり、作業時の車体固定用にアウトリガーも装備した。

型 式：AD-11SWW

仕 様：風量180m³/min, 真空圧 -500mmHg

開発年月：1991年3月（平成3年3月）

開 発 者：市川 治

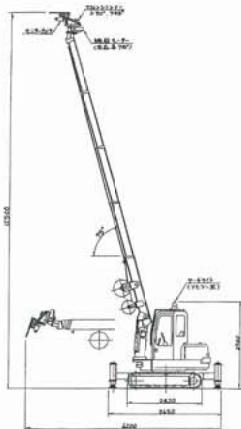
販 売 者：柳井仁司

納 入 先：株環境清美殿

納入年月：1991年4月（平成3年4月）

エピソード：駆動部の配置に最も苦心した。機能的な操作盤、駆動部のみのカバー（アルミ）等超大型機ではあるが、洗練された設計であったと自負しています。

1991 高所洗浄アタッチメント車 CAJ-12



品 名：高所洗浄アタッチメント車

開発目的：高所洗浄用。

特 徴：屋根の高さで洗浄できる。

型 式：CAJ-12

開発年月：1991年3月（平成3年3月）

開 發 者：山崎良二

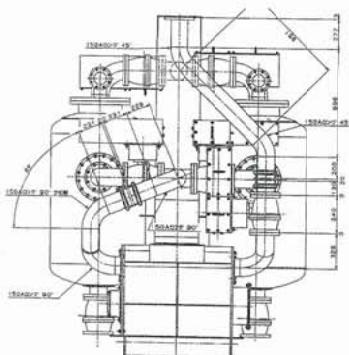
販 売 者：武市芳夫

納 入 先：大三運輸工業(株)殿

納入年月：1991年3月（平成3年3月）

エピソード：神戸製鋼(株)加古川製鉄所構内で高所での堆積落鉱～アンローダー機械室等の高所洗浄作業用として開発。安全・要員の合理化等にメリット大。

1991 ダイバックス DIVAX



品 名：ダイバックス

開発目的：高深度汚泥回収装置。

特 徴：連続吸排機のタンクユニットを水中に降ろすことにより高深度の作業が可能。

型 式：DIVAX

仕 様：タンク容量 $1.0m^3 \times 2$ 台

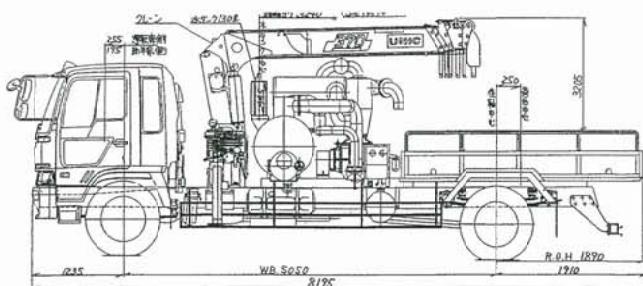
開発年月：1991年11月（平成3年11月）

開 発 者：山本健二

納 入 先：試作

エピソード：試作機ながら(株)都市美粧建設殿にて高知県内の浚渫工事に活躍しました。

1992 クレーン付瓦土吸引車 FP-07CC



品 名：クレーン付瓦土吸引車

開発目的：レシーバータンク脱着式の瓦土吸引車。

特 徴：荷台の上にレシーバータンクを搭載する事ができる。2次キャッチャー内にスネッキ状の搔き出し装置付き。

型 式：FP-07CC

仕 様：風量 $41m^3/min$, 真空圧 $-500mmHg$

開発年月：1992年7月（平成4年7月）

開 發 者：福永義章

販 売 者：下村賀基

納 入 先：アリオ産業株殿

納入年月：1992年7月（平成4年7月）

エピソード：クレーンが6段ブーム指定であった為、重量バランスが大変だった。架装後、最大安定角度の問題（下記）がでて、大改造を行った。

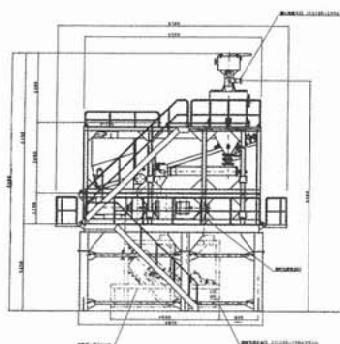
1. 上物の重心を下げる。

2. レシーバータンクを脱着式にする。

3. レシーバータンク取付部を荷台に改造。

納入後、ユーザーがとても使い易いと言われた事が救いである。トラブルだらけの機械であったが、苦労と共に大変勉強になりました。

1992 混練機 MM-60



品 名：混練機

開発目的：浚渫汚泥の後処理で汚泥を固化する為に固化剤を混練する。

特 徴：組立式で11ton トラックで運搬できる。

型 式：MM-60

仕 様：混練能力 $60\text{m}^3/\text{h}$, 固化剤 $200\text{kg}/\text{m}^3$

開発年月：1992年9月（平成4年9月）

開 発 者：山本健二

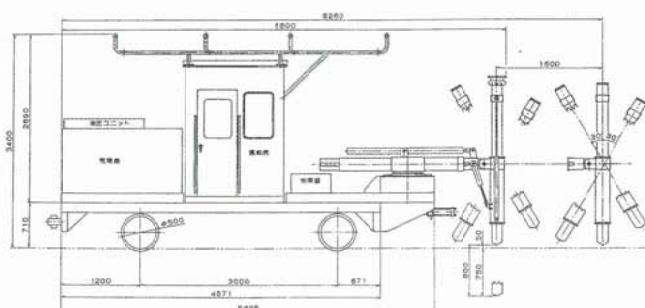
販 売 者：北條英二

納 入 先：(株)早水組殿

納入年月：1992年9月（平成4年9月）

エピソード：混練機には粉体供給装置と連続吸排機をセットで使用します。全体が組上ったら大きくて迫力がありました。

1992 バラスト回収アタッチメント BA-150S



品 名：バラスト回収アタッチメント

開発目的：道床バラストの吸引回収を省力化する。

特 徴：軌道用台車に搭載。駆動源は発電機で油圧リモコン操作。

型 式：BA-150S

仕 様：吸引口 150A

開発年月：1992年7月（平成4年7月）

開 発 者：小浜耕一

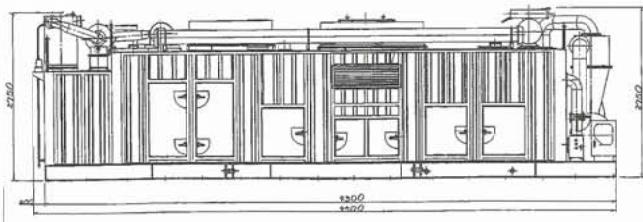
販 売 者：石村 章

納 入 先：大阪市交通局殿

納入年月：1992年10月（平成4年10月）

エピソード：枕木下のバラスト回収、サードレール（高圧線）近辺清掃での危険性の回避に苦心した。

1992 オンレール型バラスト回収システム DE-150SW+SR-140 (S)



品 名： オンレール型バラスト回収システム

開発目的： 地下鉄における道床バラストの交換。

特 徴： 吸引機及び回収タンクともに防音性に優れ、また車両編成に応じて前後どちらからでも吸引回収ができる。また回収タンクはバラストの投入にも使用できる。

型 式： DE-150SW+SR-140 (S)

仕 様： 風量100m³/min, 真空圧 -500mmHg
タンク容量14m³

開発年月： 1992年5月（平成4年5月）

開 発 者： 久米信明

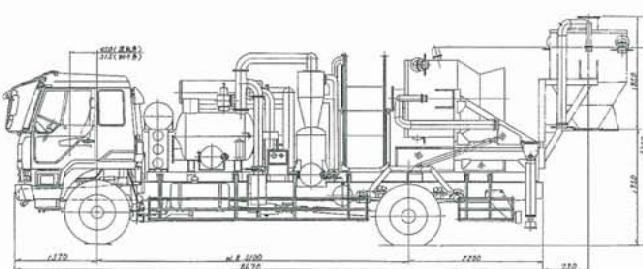
販 売 者： 石村 章

納 入 先： 大阪市交通局殿

納入年月： 1992年7月（平成4年7月）

エピソード： 社内には車両編成し、完成検査・試運転を行う場所がなく、運送会社の空きスペースを借りておこなった。また、回収タンクの取出口には、種々制約があり、部分的な試作を行う事により、その構造、機能を確認した。

1992 活性炭回収専用吸引車 SQ-08SH (S)



品 名： 活性炭回収専用吸引車

開発目的： 活性炭専用吸引車としてフレコンバックへの回収（袋づめ）し易い構造のレシーバータンクを搭載。

特 徴： ①吸引回収作業時はレシーバータンクを垂直にさせ、回収した活性炭をフレコンバックに排出し袋づめ作業を容易にした。
②ホースリールを搭載し、作業ホースの収納に際し、省力化を行った。

型 式： SQ-08SH (S)

仕 様： 風量70m³/min, 真空圧 -700mmHg

開発年月： 1992年11月（平成4年11月）

開 発 者： 山崎由弘

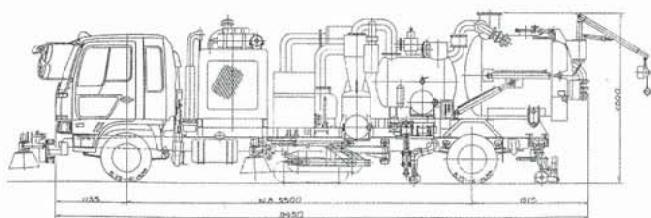
販 売 者： 竹内 隆

納 入 先： (株)鹿島商会殿

納入年月： 1992年11月（平成4年11月）

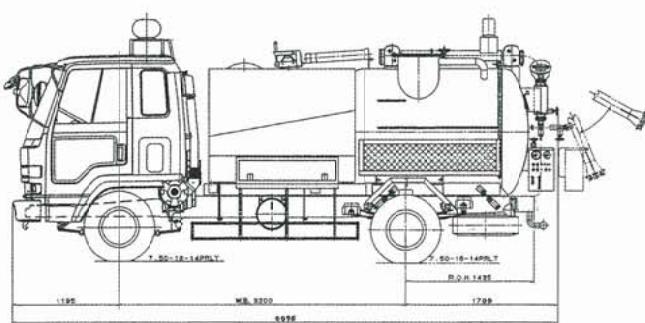
エピソード： ダンプ角度90°なので立った時のストッパーの当たりやフレーム強度等心配な面もあったが、問題なくできた。

1993 スイーパー付パワープロペスター AD-05B



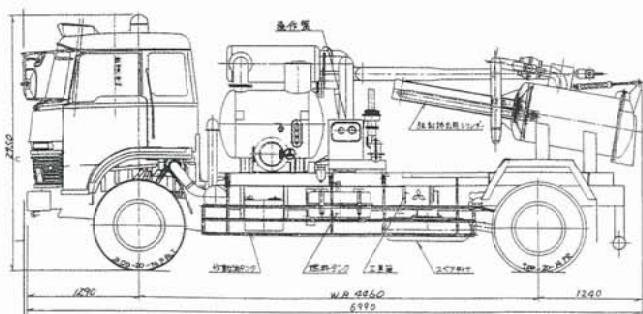
品 名：スイーパー付パワープロペスター
開発目的：コークス工場専用低速スイーパー。
特 徴：吸引機構と清掃装置を組合せ、清掃ブラシ等はシーケンス制御とした。
型 式：AD-05B (S)
仕 様：風量60m³/min、真空圧-450mmHg
開発年月：1993年4月（平成5年4月）
開 発 者：長野功一
販 売 者：武市芳夫
納 入 先：新日本製鉄(株)名古屋製鉄所殿
納入年月：1993年7月（平成5年7月）
エピソード：コークス工場の床面清掃用として、軌道面を平面化して清掃するシステムに対応し製品化したもので、前面、側面及び後面にブラシ、側面に搔きブラシを取り付け、各作業用途に応じて使い分ける機種である。

1993 高圧洗浄車 JF-04M2019A



品 名：高圧洗浄車（自動巻送り装置付車）
開発目的：革新的改良型高圧洗浄車。
特 徴：メインリールをキャブバックに置き、送出装置を取り付ける事により自動巻送りを実現。後方ガイド管を取り付ける事により車両の位置決めが楽。エアー式調圧弁の採用により操作盤にて圧力調整が可能。
型 式：JF-04M2019A
仕 様：圧力190kg/cm²、水量200L/min
開発年月：1993年10月（平成5年10月）
開 発 者：小浜耕一
販 売 者：堤 和宏
納 入 先：株環境センター大蔵殿
納入年月：1994年1月（平成6年1月）
エピソード：送出装置のスリップ、ホース配列、上物重心、ガイド管の操作性等全体の見直しが必要となつた。現在主流のA型洗浄車の基礎となった。

1993 自動連続排出レシーバー付側溝清掃車 FP-06SKT



品 名：自動連続排出レシーバー付側溝清掃車

開発目的：樋門清掃作業時に現地にて汚泥の含水率低下及び排水の放流を行えるようにする。

特 徴：2つのレシーバータンクで交互に吸引・排出を連続して行う。

型 式：FP-06SKT

仕 様：風量34m³/min, 真空圧-450mmHg

開発年月：1993年10月（平成5年10月）

開 発 者：山崎良二

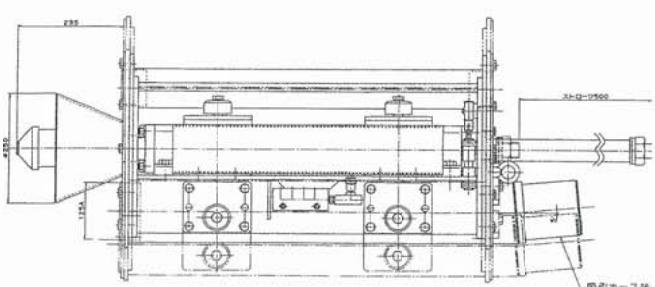
販 売 者：横山真治

納 入 先：北海道開発局殿

納入年月：1993年11月（平成5年10月）

エピソード：吸引と土砂の排出バランスの調整がなかなか合わず、本社工場で何度もテストをくりかえした。

1993 ウォータージェット掘削推進用アタッチメント WJ-450AT



品 名：ウォータージェット掘削推進用アタッチメント

開発目的：小口径推進工事において高圧水を利用した簡易的な掘削装置の開発。

特 徴：土中の掘削は高圧水を行い、掘削した土砂は真空吸引で排土する機構。

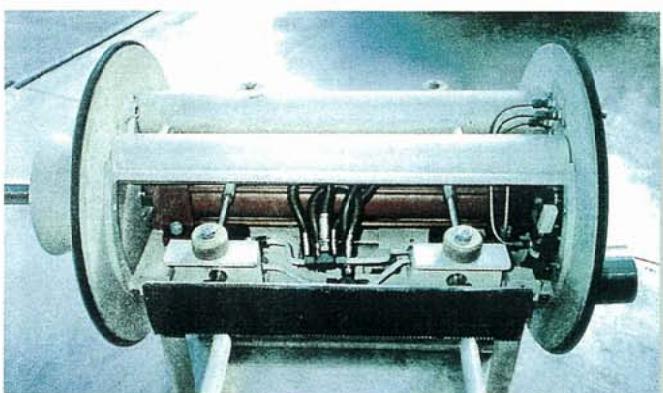
型 式：WJ-450AT

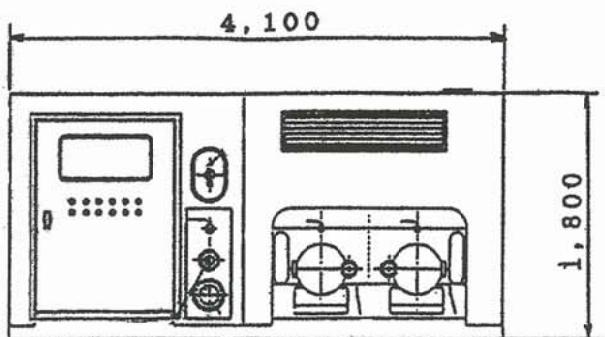
開発年月：1993年12月（平成5年12月）

開 発 者：北條英二

納 入 先：試作

エピソード：推進工事の精度確保の為のアタッチメントの姿勢制御が課題のまま開発を中断した。





品名：間欠式吸排機

開発目的：レシーバータンクの無い吸引圧送装置として
小型可搬式で、長距離、大量輸送のできるシ
ステムを目指し開発。

特徴：吸引配管がレシーバータンクの代わりとして、吸引配管内に吸引した物を定期的に加圧送達しながら長距離輸送を行うもの。

型 式：ID-60VP

開発年月：1993年12月（平成5年12月）

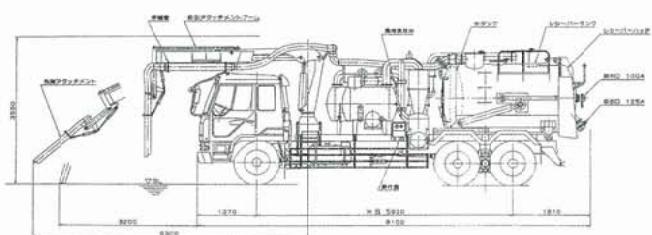
開 発 者：北條英二

販 売 者：柳井仁司

納入先：(株)橋本設備工業所殿

納入年月：1994年2月（平成6年2月）

エピソード：最初の工事現場では予期せぬトラブルで充分な性能を得られないまま終了。



品 名：アタッチメント付吸引車

開発目的：製鉄所で原料を運搬船より荷揚げする際、岸壁及び海に落ちる原料をアタッチメント付吸引車で楽に清掃する。

特徴：パワープロベスターに収納型アタッチメントを架装。

型 式：SQ-11CHA (S)

仕 様：風量70m³/min、真空圧-700mmHg

作業半径6m アタッチメント作業遠隔式

開発年月：1993年12月（平成5年12月）

開 発 者：大黒哲也

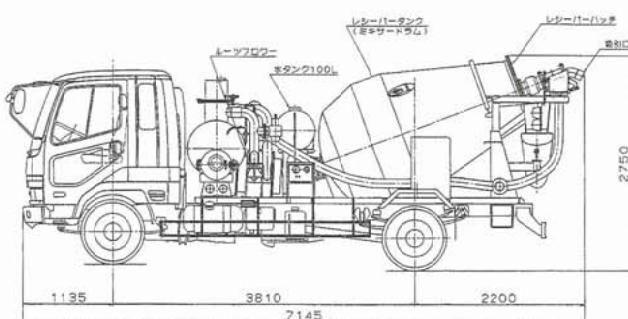
販 売 者：武市芳夫

納入先：富士港運(株)殿

納入年月：1994年2月（平成6年2月）

エピソード：アタッチメントブームには吸引ホースと伸縮管が取付いており、収納性を良くする為の工夫に大変苦労した。

1994 砂洗浄車 MP-05MKF



品 名：砂洗浄車（ミスター・サンドマン）

開発目的：子供たちが楽しく遊ぶ公園の砂場をガラスの破片や動物の排泄物の汚染より守る。

特 徴：モービルバッケ（吸引車）にミキサードラムを架装し、砂を吸引、洗浄（消毒）後、排出できる機構。

型 式：MP-05MKF

仕 様：風量20m³/min, 真空圧-650mmHg
タンク容量3.4m³

開発年月：1994年2月（平成6年2月）

開 発 者：大黒哲也

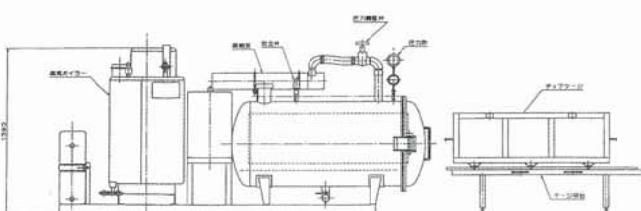
販 売 者：西 利文

納 入 先：(株)環境開発殿

納入年月：1994年4月（平成6年4月）

エピソード：平成5年、(株)環境開発殿から公園の砂を洗浄できないかとの依頼があり、いろんな方法でテストを行ったが思うように洗浄できず、最後にミキサーによる洗浄方法に行きついた。また、消毒液を入れる事で完全に殺菌も行えている。

1994 ヒノキ油抽出装置



品 名：ヒノキ油抽出装置

開発目的：檜からヒノキ油を抽出する。

特 徴：チップ状の檜材を蒸留することにより油を抽出する装置。

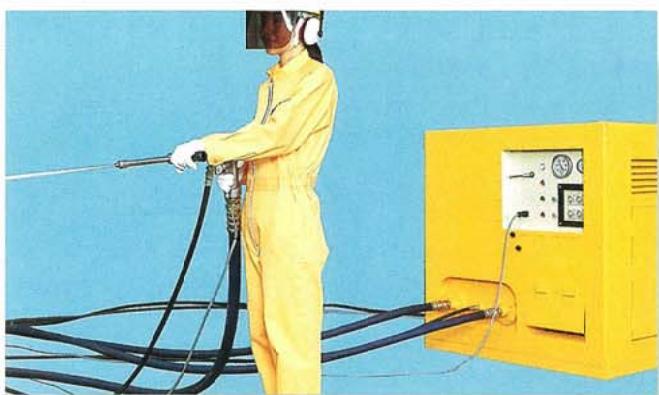
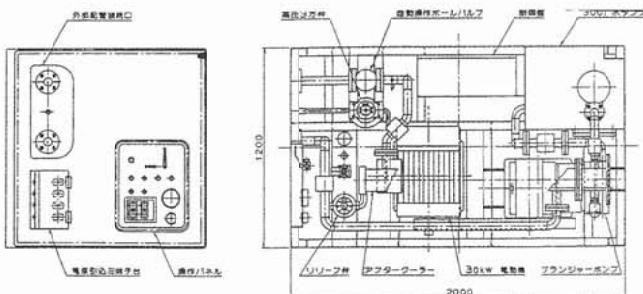
開発年月：1994年3月（平成6年3月）

開 発 者：長野功一

納 入 先：試作

エピソード：檜は含油率が低く、いかに効率よく油分を抽出するかが問題であった。





品 名：バランスジェット

開発目的：噴射ガンでの洗浄作業における高圧水の噴射力の反動を軽減し、安全に洗浄作業の出来る装置として開発。

特徴：高压水の噴射と同時に反対方向に圧縮空気を噴射する事で、高压水の噴射による反動を軽減する噴射ガンと噴射制御を行う制御ユニット及び市販コンプレッサーで構成される。

型 式：BE-M1310

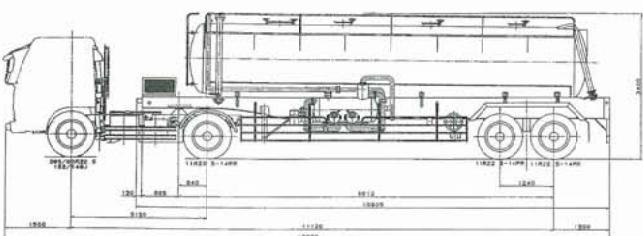
仕様：10～15kgfの反動力

開発年月：1994年5月（平成6年5月）

開 発 者：松岡順一

納入先：試作

エピソード：高圧水と圧縮空気の推力の発生するタイミングの調整が難しく、安全確保する機構にも頭が痛かった。故大谷前社長の最後の開発テーマとなった。



品 名：トレーラー式吸引車

開発目的：トレーラーにブロワーを搭載し、大量運搬する。

特徴：ブロワー吸引により、こ吸引より処理時間が早い。

型 式：MT-26BHP

仕 様：風量 $10\text{m}^3/\text{min}$ 、真空圧 -650mmHg
タンク容量 18.0m^3

開業年月：1994年6月（平成6年6月）

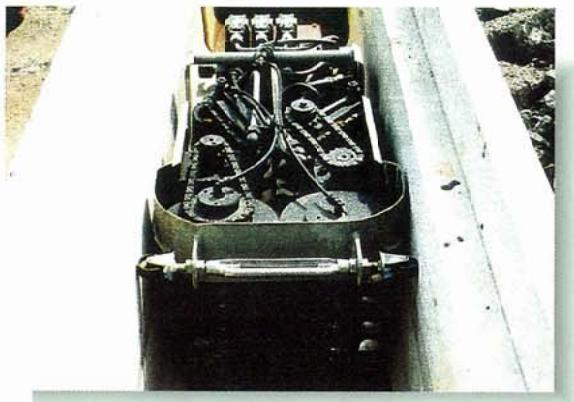
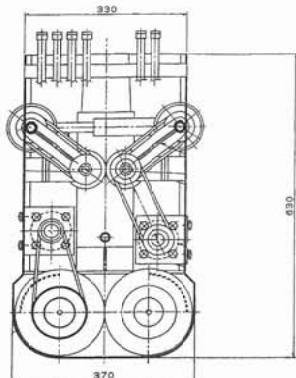
開　登　者・大里哲也

販 売 者：西 利文

納入先：(有)一翠社殿

納入年月：1994年8月（平成6年8月）
エピソード：トレーラーとトラクタ連結式吸引車は初めて
であり、レシーバータンクの割れ問題やプロ
ワーの油圧駆動による熱問題等の対策に苦労
した。

1995 モグラアタッチメント SK-RA2



品 名：モグラアタッチメント

開発目的：側溝清掃における省略化。

特 徴：遠隔操作で側溝を自走しながら、吸引するアタッチメント。

型 式：SK-RA2

仕 様：300~400mmまでの側溝巾に対応

開発年月：1995年3月（平成7年3月）

開 発 者：森下昭弘

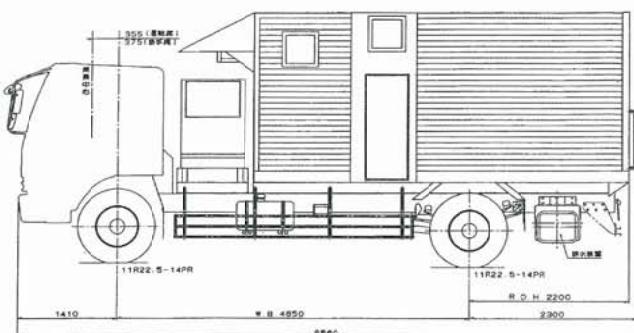
販 売 者：山崎良二

納 入 先：建設省四国技術事務所殿

納入年月：1995年3月（平成7年3月）

エピソード：ウィンチにてけん引するタイプで操作性に問題があった。その後、自走式に改造した。

1995 脱水車(多重円板式) AD-810HD



品 名：脱水車(多重円板式)

開発目的：有機汚泥専用車として開発。

特 徴：有機汚泥に適した多重円板脱水車。目詰まりしない特殊回転濾過体により含油汚泥など従来脱水困難な汚泥にも適用。

型 式：AD-810HD

仕 様：6m³/hの処理能力

開発年月：1995年7月（平成7年7月）

開 発 者：森下昭弘

販 売 者：西 利文

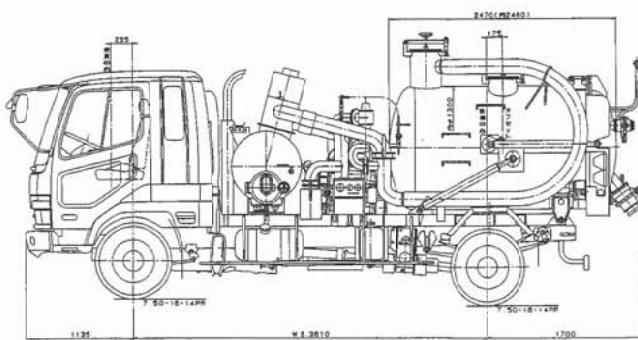
納 入 先：共栄環境開発(株)殿

納入年月：1995年8月（平成7年8月）

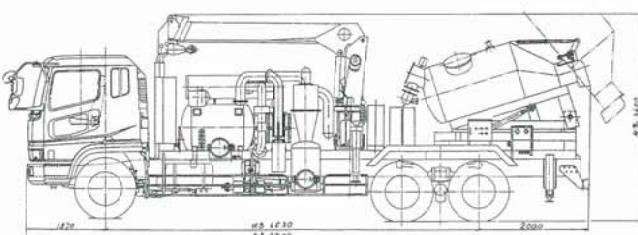
エピソード：サブフレーム、カバーにはアルミを使用した。



1996 スーパーモービル SM-04BHP



1998 活性炭連続吸引車 SQ-11CHC (S)



品 名：スーパー モービル

開発目的：モービルバックの高能力車。

特 徴：モービルバック並みのレシーバー容量を維持し、吸引能力を向上させた。

型 式：SM-04BHP

仕 様：風量35m³/min, 真空圧-700mmHg

開発年月：1996年12月（平成8年12月）

開 発 者：鶴嶋昌彦

販 売 者：佐竹 薫

納 入 先：(有)明石浚渫興業殿

納入年月：1998年12月（平成10年12月）

エピソード：軽量化をする為にコンパクト化を図ったが、4次キャッチャーからの水飛びが思っていたよりも多く、防止するのに苦労した。

ブロワーの自動空気冷却装置（SHAC）を採用し、ブロワーの性能を向上させた。

品 名：活性炭連続吸引車

開発目的：自動制御で扱い易い機械にする。

特 徹：自動で2基のタンクに交互で吸引及び排出がくり返される。

型 式：SQ-11CHC (S)

仕 様：タンク容量1.5m³×2基、風量70m³/min

真空圧-700mmHg

開発年月：1998年1月（平成10年1月）

開 発 者：田辺良彦

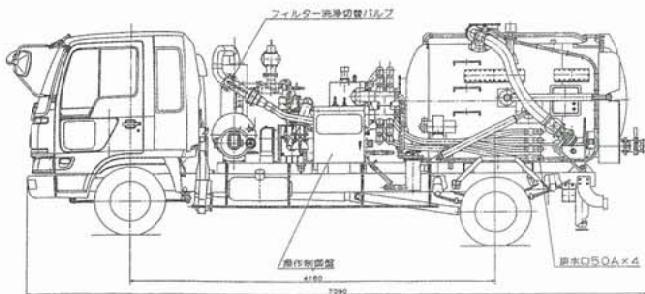
販 売 者：佃 維男

納 入 先：宮瀬運輸(株)殿

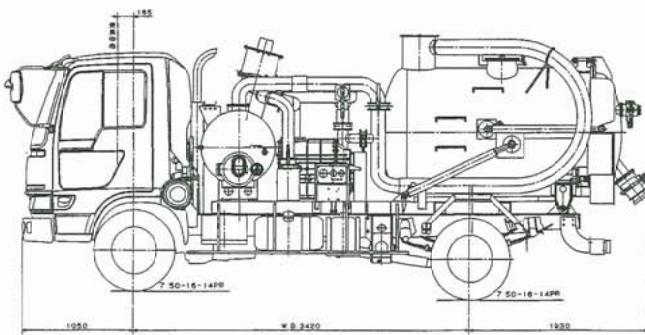
納入年月：1998年1月（平成10年1月）

エピソード：タンクを降ろした時、吸引口が開き、吸引物が運搬できる構造とする為に吸引口に逆止弁を取り付けたが強度不足や摩耗により何回も作り直した。

1998 吸引車減容化システム



1998 ローノイズスーパー車 LS-04BGP



品名：吸引車減容化システム

開発目的：吸引車に装着可能な減容システムの開発。

特徴：吸引汚泥をボリュームダウンし、処分費用等の低減を図る。

仕様：風量18m³/min, 真空圧-520mmHg

タンク容量2.2m³、凝集剤タンク100L×2基

開発年月：1998年4月（平成10年4月）

開発者：和田英一

納入先：試作

エピソード：フィルターの目詰まり対策及び洗浄方法に苦労した。

品名：ローノイズスーパー車 LS-04BGP

開発目的：低騒音、省エネを目指した機械。

特徴：住宅街や夜間作業でも使用できる様に、音を抑える工夫をした。（新開発のスパイラルポンプを採用）

型式：LS-04BGP

仕様：風量35m³/min, 真空圧-730mmHg

開発年月：1998年10月（平成10年10月）

開発者：松本泰典

販売者：萩野智寛

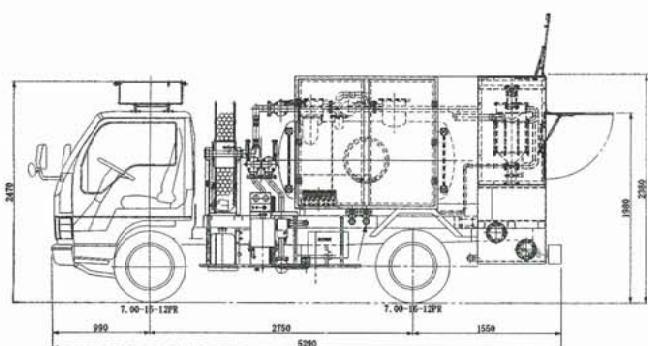
納入先：株環境サービス殿

納入年月：2000年9月（平成12年9月）

エピソード：スパイラルポンプは圧力変動が大きい為、従来ブロワーに設置していたSHAC（自助空気冷却装置）をそのまま採用すると、逆止弁がきかず水漏れが起こった。それを防ぐ為に圧力変動緩衝装置を取り付けた。騒音値は非常に低くなった。

1999 灯油ホームタンク洗浄車

MP-03BTP (S)



品 名：灯油ホームタンク洗浄車

開発目的：北海道等で使用されている灯油タンク（ホームタンク）の内側を洗浄し、灯油タンクの劣化による暖房設備等の故障を防ぐ目的で開発。

特 徴：真空ポンプにて灯油を吸引し、3種類の濾過槽を経てホームタンクに戻す。全ての操作が無線遠隔操作で行え、作業内容も印字記録可能。

型 式：MP-03BTP (S)

仕 様：灯油最大積載量980L（指定数量1000L）少量危険物貯蔵取扱所として届出（旭川消防署）水最大積載量420L 油投入式ベーンポンプ（-750mmHg）搭載

開発年月：1999年1月（平成11年1月）

開 発 者：山崎由弘

販 売 者：横山真治

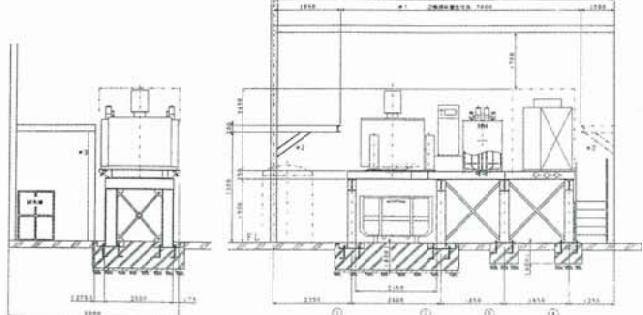
納 入 先：株茂田石油殿

納入年月：1999年2月（平成11年2月）

エピソード：対象物が灯油の為、高知、札幌、旭川の消防署に注意点等を聞きに行った。提出書類が多く大変であった。管路の切換等制御をほとんどリミットスイッチで行ったが誤動作が発生した。

1999 ハイブリッドバスケット

EL-060DH



品 名：ハイブリッドバスケット

開発目的：遠心分離機の欠点である動力が大きいという問題解決の為、省動力化を図る。

特 徴：使用電気料（量）が約半分でまかなえる。

型 式：EL-060DH

仕 様：60インチ縦型バスケット、動力55kWモータ、EV用70Ahバッテリ24個装備

開発年月：1999年2月（平成11年2月）

開 発 者：立花邦彦

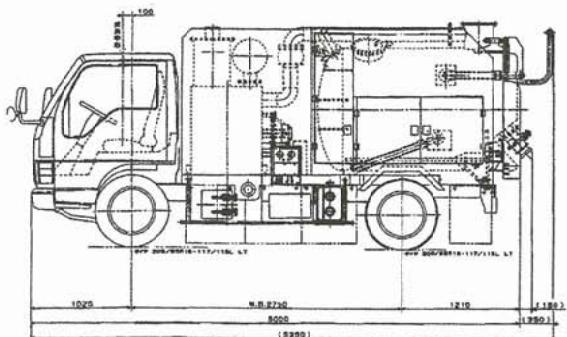
販 売 者：浜口卓三

納 入 先：株コーチンサービス殿

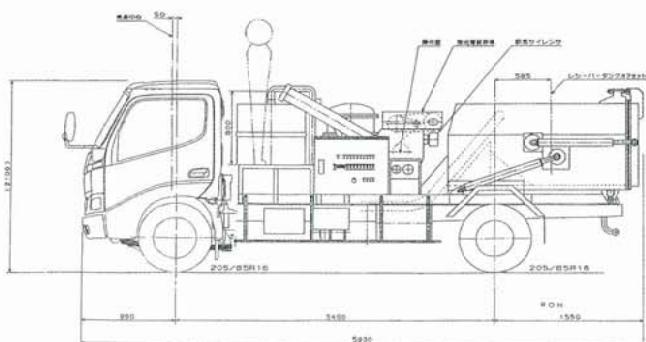
納入年月：2000年11月（平成12年11月）

エピソード：油圧式に比べてあまりに静かな為、バスケットが回転していることがわからず、電源を切ってしまったことも。

1999 エアーショベル LS-03SCT



1999 廃蛍光管収集車 SP-02BF (S)



品 名：エアーショベル

開発目的：都市部での電柱設置における試掘作業を安全に効率良く行う。

特 徴：試掘作業時に地中既設埋設物を傷めないよう、掘削には圧縮空気を利用。掘削した土砂は真空吸引排土する事で大幅に掘削量削減が出来る。

型 式：LS-03SCT

仕 様：風量35m³/min, 真空圧-730mmHg

開発年月：1999年7月（平成11年7月）

開 発 者：梅原伸明

販 売 者：小玉英雄

納 入 先：(株)トーエネック殿

納入年月：1999年11月（平成11年11月）

エピソード：圧縮空気や高圧水などの流体を使って地中掘削する事は今までやっていたが、電力会社での電柱埋設工事に使用する計画が持ち上がり、基礎実験から実機製作までを実施した。地中に埋設しているあらゆる管のサンプルを集め、傷のつかない圧力、流量を調べて工法を決め実機計画をおこない製作した。

品 名：廃蛍光管収集車

開発目的：移動式で蛍光管を減容して回収する。

特 徴：ビルの地下駐車場での作業の為、3t車で全高2100mm。水銀活性炭の飽和を知る為に排気を水銀モニターで監視できる。

型 式：SP-02BF (S)

仕 様：吸引風量3m³/min, タンク容量1.5m³

最大積載量580kg, バグフィルター濾過面積2.8m², 蛍光管破碎機投入口200×150mm, 水銀ガス吸着塔活性炭重量204kg

開発年月：1999年12月（平成11年12月）

開 発 者：山本健二

販 売 者：山崎良二

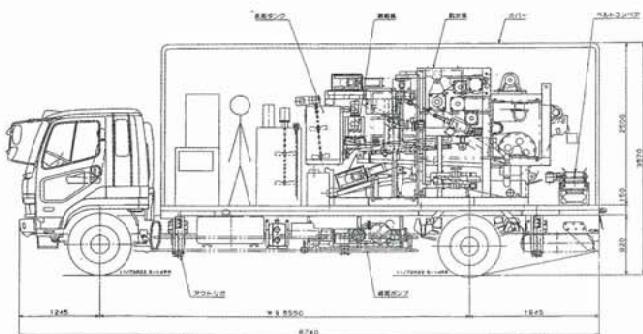
納 入 先：有信(株)殿

納入年月：2000年1月（平成12年1月）

エピソード：本車両は有信(株)殿が補助金にて製作した。

また、平成12年度異業種交流成果表彰事業において優秀賞をいただきました。

2000 脱水車(ベルトプレス式) AG-710BD



品名：脱水車(ベルトプレス式)

開発目的：農集等の下水余剰汚泥処理車。

特徴：前処理として濃縮装置を備えた高能力装置。

型式：AG-710BD

仕様：1m巾高圧ベルトプレス式脱水機

開発年月：2000年1月(平成12年1月)

開発者：清水明彦

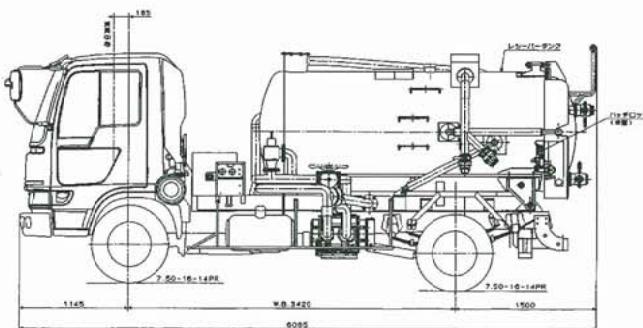
販売者：林 久貴

納入先：(株)三次衛生工業社殿

納入年月：2000年3月(平成12年3月)

エピソード：要望能力を得る為には、前処理が必須なので
すが良い物がなく、いろいろ試行錯誤しました。
偶然立ち寄った処理場で見た装置を見て
ピンときました。インスピレーションって大
切ですね。

2000 トランスマービル TM-04BVP



品名：トランスマービル

開発目的：真空吸引車市場(汚泥吸引車市場)に参入する
為の機械。

特徴：大容量のレシーバータンクで回収、運搬が出来る安
価な吸引車。

型式：TM-04BVP

仕様：風量10m³/min, 真空圧-720mmHg

開発年月：2000年4月(平成12年4月)

開発者：松本泰典

販売者：大石徳男

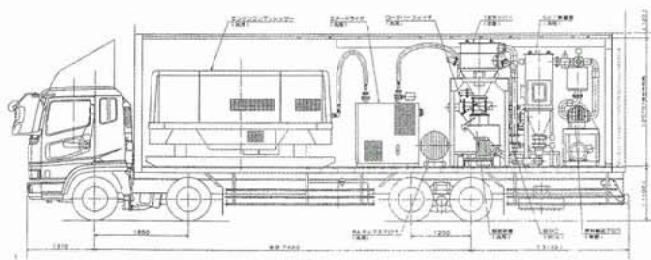
納入先：(有)ホープ再油大分殿

納入年月：2000年5月(平成12年5月)

エピソード：ブロワーを車両サイドに配置したので、駆動
部の地上高が低くなり過ぎ改造を行った。

また、ポンプベースも弱く強度アップを図った。
吸引能力は思っていた以上あって、ユー
ザーの評価は良い。

2000 カオスジェットミル車 EL-30 (S)



品 名：カオスジェットミル車

開発目的：ジェットミル開発メーカーが架装した焼却灰リサイクルプラント車。K&Eには原料吸引部分の改造依頼がきたので対応。(システムから見直しした)

特 徴：ウイングボディー車に架装。

型 式：EL-30 (S)

仕 様：風量15m³/min、真空圧 -400mmHgにて原料吸引。配管・制御は改造したが各ユニットはほぼそのまま使用した。

開発年月：2000年10月（平成12年10月）

開 発 者：山崎由弘

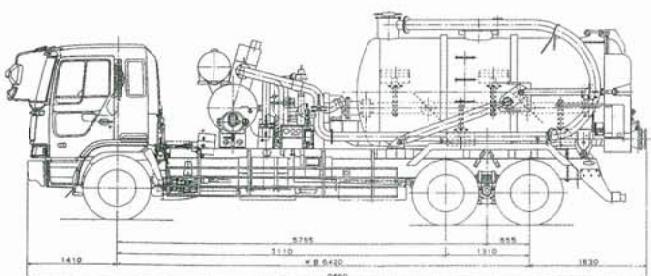
販 売 者：山崎良二

納 入 先：(株)京葉興業殿

納入年月：2000年12月（平成12年12月）

エピソード：ウイングボディーへの架装、現物実測での図面化等、初めての対応で手間ひまはかかったが個人的に非常に満足のいく物にできたと思う。

2000 モルタル混練車 SM-13BVP



品 名：モルタル混練車

開発目的：プラントで混練したモルタルを打ち込み現場まで固まらないように運搬する。

特 徴：ミキサー車の油圧システムでタンク内に取り付けした攪拌羽根を回転させる。

型 式：SM-13BVP (S)

仕 様：吸引車仕様SM-13BVP、混練装置F/W PTO駆動（大型ミキサーの油圧システム）、混練回転数/羽根数12.5rpm/6枚（120°振り）、混練トルク最大1.8ton·m

開発年月：2000年11月（平成12年11月）

開 発 者：山崎由弘

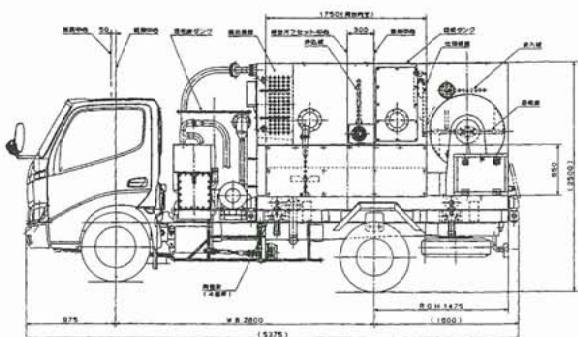
販 売 者：西 利文

納 入 先：(株)環境施設殿

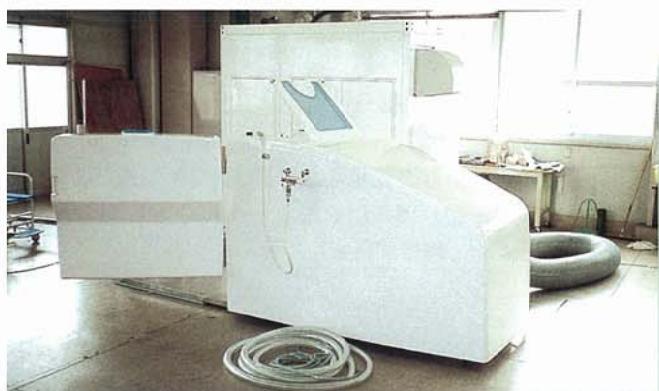
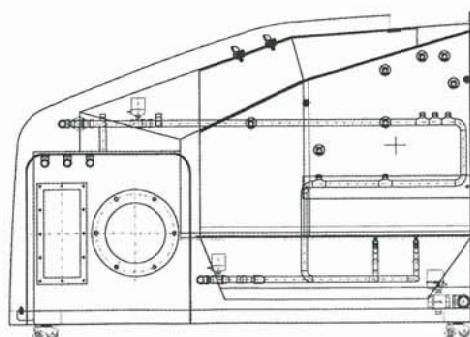
納入年月：2000年12月（平成12年12月）

エピソード：大トルク仕様の為、各部強度及びタンク内外仕切り部の回転軸シール等心配な面もあったが、特に問題もなく納入できた。

2001 発泡スチロール回収車 PMC-03K



2001 節水型身体洗浄介護装置



品 名：発泡スチロール回収車

開発目的：発泡スチロールリサイクルプラントの一部（減容収集車）として開発。

特 徴：換気用ファン及び活性炭（ガス吸着用）
ロードセル式荷重計装備。

型 式：PMC-03K

仕 様：溶剤量1150kg（約860L）
最大積載量350kg（発泡スチロール）

開発年月：2001年2月（平成13年2月）

開 発 者：山崎由弘

販 売 者：野川正美

納 入 先：株エンヴァイロ殿

納入年月：2001年3月（平成13年3月）

エピソード：コンベヤ式投入にするか、回転板式（塵芥車方式）にするかで気化ガスをできるだけ外部にもらさない為に回転板式とした。試運転時活性炭タンクが熱くなった。調査すると吸着=発熱ということであった。標準ウレタン塗料が溶剤でとけるので特殊塗料にて塗装した。

品 名：節水型身体洗浄介護装置

開発目的：老人ホーム、病院等施設における入浴介護の重労力低減を図る為に、身体洗浄等入浴介護の自動化装置の開発。

特 徴：浴槽の中に少量のゴム状の粒を入れて、浴槽底部の噴出口から温風と蒸気を出して、粒と身体の衝突摩擦により身体を洗浄する。更にマッサージ効果、温熱効果も有している。

仕 様：浴槽1200×2300×1450mm(250kg)
送風装置1430×2260×2320mm(1500kg)

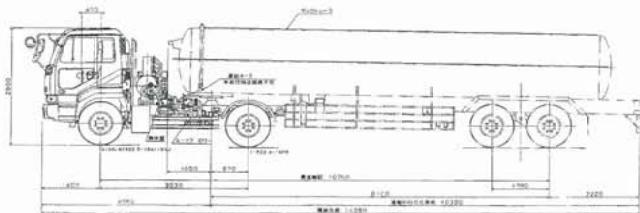
開発年月：2001年3月（平成13年3月）

開 発 者：山中義也

納 入 先：試作

エピソード：粒を思うように入浴槽の中で飛ばすのは意外と難しい。夢の中で粒に行き先を尋ねた事がある。

2001 トラクター式吸引車 TMH-08SVP



品名：トラクター式吸引車

開発目的：トラクターにブロワーを搭載し、トレーラー側のタンクと接続して大量輸送可能な吸引車。

特徴：トラクタに吸引装置を搭載。

型式：TMH-08SVP

仕様：風量10m³/min, 真空圧-720mmHg

開発年月：2001年4月（平成13年4月）

開発者：大野永美子

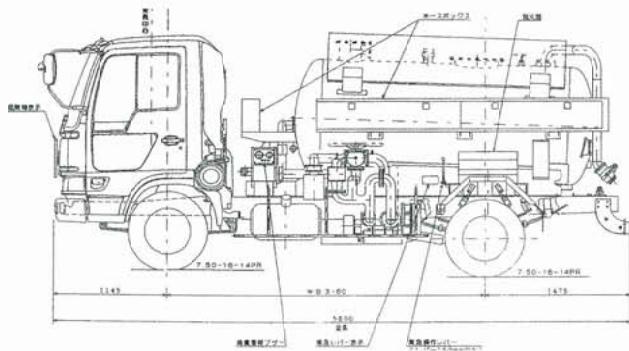
販売者：刈谷友則

納入先：松光運輸(株)殿

納入年月：2001年4月（平成13年4月）

エピソード：トレーラー側のタンクの可動範囲を避けての配置に苦労しました。

2001 消防法対応トランスマービル TM-04KVP



品名：消防法対応トランスマービル

開発目的：廃油吸引運搬車。

特徴：移動タンク貯蔵所（バキューム方式）。

型式：TM-04KVP

仕様：回収品名 第四類第三石油類廃油 最大数量2750L

開発年月：2001年4月（平成13年4月）

開発者：梅原伸明

販売者：林 久貴

納入先：第二精油(株)殿

納入年月：2001年4月（平成13年4月）

エピソード：完成検査前検査で南国と福山の消防署でくい違いがあり2度検査した。南国消防署検査合格第一号となる。